



39カ国約150人
閣僚や水専門家が

アジア・太平洋地域の水問題の解決を目指す第3回アジア・太平洋水サミット（APWF）が12月11日から2日間、ミャンマーの最大都市であるヤンゴン市で開催された。同サミットは、各国の水関連政策を統括している閣僚および国際機関の代表、各国の水分野の専門家などが一堂に会し幅広い意見交換を行う場で、25カ国の首脳級を含め39カ国から約150人、ミャンマー側の参加者を含め約700人が参加。「持続

第3回アジア・太平洋水サミット



「水の天使」宮崎さんも活躍

可能な開発のための水の安全保障」について、アジア・太平洋地域の各国が取り組むべき道筋を示す「ヤンゴン宣言」が採択された。開会式のオープニングセレモニーでは、開催国を代表してアウン・サン・スーチー国家顧問兼外相が

「水資源の確保、安全な飲料水の供給など、国が経済成長を果たすために水の安全保障は不可欠であり、今回のサミットの成果を期待している」とあいさつ。その後、各国代表のあいさつが続ぎ、日本代表の石井啓一・国土交通大臣は「日本には水問題、特に多くの水災害を克服してきた制度、技術、ノウハウが蓄積されている。これら日本の経験を皆さんと共有し、アジア

・太平洋地域の発展に寄与したい」と力強く述べた。オープニングセレモニーに続き、国際機関等が主催する約10のテーマ別セッションが始まり、今回の主題である「持続可能な開発のための水の安全保障」について討議された。石井大臣は①気候変動下の水と災害水循環の再生としての雨水利用と持続可能な地下水管理②衛生の改善と下水道の管理③3セッションにおいて、日本の貢献策を述べ日本の存在感を示した。

同宣言は、来年3月にブラジルで開催される「第8回世界水フォーラム」をはじめとする国際会議や国際機関の議論の場で発信され、SDGs達成に向けた具体策への貢献を果たすこととなる。同年9月に東京で開催されるIWA（国際水協会）世界会議の議論にも反映される。

最終日の12日に採択された「ヤンゴン宣言」では、水資源の確保、洪水対策、水災害の減災、水の有効利用、投資の拡大など幅広い目標と具

体的な行動策が

示された。特に、国連が2030年までの達成を目指す「持続可能な開発目標」（SDGs）については、目標より5年早くアジア・太平洋のすべての地域で「安全で安心な飲料水の供給、衛生的な環境を提供する」と意欲的な文言が盛り込まれた。

「ヤンゴン宣言」採択 SDGs 前倒しへ

【取材協力】グローバルウォータージャパン代表 吉村和就氏